

多様性を促進する医学科入試とは：英国とオランダの事例から学ぶ

大滝純司（東京医科大学） 鈴木康之（岐阜大学） 渡邊洋子（新潟大学）
恒川幸司（名古屋市立大学） 武田裕子（順天堂大学）
西城卓也・野村理（MEDC） 平形道人（慶應義塾大学）

医学科入試に関する課題の一つである「教育格差による受験者の多様性の低下に関する懸念」について、冒頭で論点整理を行う。次に、日本国内で行われた調査研究結果を紹介し、教育格差が医学生が多様性に大きく影響している可能性を示す。つづいて参加者の問題意識をグループワークにより共有する。後半では、英国とオランダにおける教育格差対策としての医学科入試の改革について、2025年秋に行った訪問調査の成果を含めて報告する。英国では医師の構成を人口構成に近づけることを目指したWidening participation政策が進行中であり、オランダでは医学生が多様性を維持することを目的に医学科入試に抽選制が再導入された。これらの情報を共有したのちに、全体で質疑応答や意見交換を行う。このワークショップを通じて、医学科入試における多様性の課題とその対策についてより広い視野で検討することが可能になる。

アソシエイトポイント：A 0.25

対象

大学入試やIR関係者、高校教員、メディア関係者、医学教育研究者、医療者教育に興味がある人

定員

30名程度